

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104371		
法人名	株式会社介護ステーションオアシス		
事業所名(ユニット名)	株式会社介護ステーションオアシスグループホームオアシス I		
所在地	和歌山市つつじヶ丘2丁目6の1		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の希望があれば、入所からターミナルまでの一貫したサービスを行っている。利用者様に寄り添い、家庭的な雰囲気の中で、利用者様は職員に甘える事が出来、安心して暮らせている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の重度化が進む中で意思疎通の困難さも増しているが、すべての職員が利用者へ寄り添い、思いの汲み取りに努めている。また、目的のある外出の機会をできるだけ多く持つ事にも取り組んでいる。事業所は理念に掲げるとおり、看取りに至るまで利用者の尊厳を守り通す事を目標としており、併設する訪問看護事業所及び協力医と密に連携し、実りある実践を続けている。外部評価をステップアップの良い機会と捉え、話し合いの中から得た運営推進会議の有効活用により地域との交流を促進するという方向性に沿いながら、より深い地域との協力関係を築く事を目指し、積極的な働きかけを展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全かつ質の高い介護を目指し、まず職員に介護職としての自覚を持ってもらう為に、毎朝理念を言い、今月の目標を定めて毎日自己評価を行っている。	事業所理念は代表者の発案によるが、管理者及び全ての職員の承認を得て指針としている。理念はホール内に掲げると共に、毎朝の唱和を通して共有を図っている。より実践に繋げる為、月毎の具体的な目標を定め、自己評価を行いながら介護の質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の人と気軽に挨拶を行い又、年に一回大々的に秋祭りをし近隣との交流を図っている。	日常的に行っている散歩等で近隣の方々との挨拶はもちろんのこと、年1回催す秋祭りには多くのボランティアの協力を得て模擬店を設ける等地域ぐるみの参加が実現している。招待の為事前に各戸を訪問する事も交流の良い機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の介護支援専門員が常時相談を受け付けており、介護の日には気軽に相談出来る様チラシ等の配布をしたり、代表者が講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や自治会、包括の職員に参加してもらい報告を行っているが、会議のメンバーからはあまり意見は聞かれない。	運営推進会議には利用者家族・自治会役員・民生委員・包括支援センター職員等が出席し、2月に1回の開催である。評価への取り組みが実を結び、地域の代表の参加が実現している。話し合いで出された意見をサービス向上に活かす為双方向の会議を目指し、取り組みを進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導を仰いだり、分からない事等を尋ねたり、連携をもつ様に心がけている。	包括センター担当者とは運営推進会議の場以外にも日頃から連絡を密にとり、市の保護課ケースワーカーの定期的な訪問時には、利用者の暮らしぶりや事業所のサービスへの取り組みを積極的に伝える等で、行政担当者との協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、色々工夫して対応している。又、拘束についての勉強会も行っている。	事業所の年間計画に基づいての内部研修及び外部での研修により、代表者とすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解しており、出入口の施錠や行動の抑制、見逃しやすい言葉での拘束についても、職員自身の振り返りや職員相互の確認を常に行いながら、身体拘束の廃除に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待に対して強い関心を持ち、何時も注意し虐待等の行為に対して許さない強い姿勢を持っている。又、その考えは全職員に浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人には後見人制度の利用をおこなっている為、職員にも学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に一度以上は来所されるので、その都度意見や要望を伺い思いを汲み取る様心がけている。	遠隔地の家族等を除き、利用料は事業所を訪れての直接支払いを原則としている事で、面談の機会が確保されている。管理者や職員は話しやすい雰囲気づくりに努めながら利用者や家族等の意見・要望を聞き取り、運営に反映させている。又運営推進会議は利用者や家族等が外部者に意見・要望を表せる機会であり、加えて文書又は口頭で外部機関の苦情・相談窓口を明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議等を行い職員の意見を聞き、代表者は常に事業所を訪れ職員の提案等を活かしてくれている。	職員は会議の場以外でも、代表者や管理者に制限なく意見・提案を出す事ができる。利用者の処遇面だけでなく備品の購入等、意見・提案を出しており、代表者への上申により決裁を受ける事で運営への反映が成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等を取得する様に勧め、資格に対して給与に反映する様なシステムになっている。職員の適性がよく把握されており、適材を適所に配置し、各人が向上心を持って働ける様工夫されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に職員のスキルアップを考えており、研修への参加やケアの現場に入り、指導を行い職員の介護技術の向上に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加しているが、特に同業者との積極的な交流は無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前からケアマネージャーや職員が関わりを持ち、出来るだけ本人の声を聞くように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に話を聞き、家族の思いを受け止め信頼を得られる様な支援を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、家族の訴え等から、本人と家族にとって、一番必要な支援を決めて行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事はやってもらい、一緒にゆっくりと楽しくという理念の下で共に楽しみ助け合う雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、家族の思いに添いながら支援させてもらう事を伝え、頻回の面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があれば共に喜び、再度の来所をお願いしている。	家族等が同伴しての墓参りや外食等が実現しており、家族等の訪問があまり無い場合には、電話を用いる等で互いの近況を確認し合っている。又併設のデイサービスを利用する知人が訪れて、楽しく語らう等事業所による馴染みの人や場との関係継続の支援の成果が随所に見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも座る場所を決めており、その場所にいつもの人が居ないと心配される。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等されたら、度々御見舞いに行き、経過の把握に努め、家族との話し合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回職員会議で、利用者様一人づつについて話し合い、その人の希望や思いについて検討し、出来る限り実現出来る様にしている。	担当制をとっているが、利用者一人ひとりの思いや意向はすべての職員が把握する必要がある為会議の場やノートの活用で共有を図っている。ほぼ把握はできているが、職員による決めつけや思い込みがないかを本人の視点に立って常に話し合いながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取り、又面会の度に家族と雑談をしたりしながら、これまでの暮らし方や生活歴を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力、わかる力を正しく評価し、職員で総合的に見つめる目を養う努力をする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には来所の度に状態の説明を行い、介護計画書を見てもらいながら話を聞き、職員には月一回のミーティング時にそれぞれの受け持ちの意見を聞いている。	本人・家族等とは来訪時や連絡をとった際に課題等について話し合い、かかりつけ医・看護師等の医療関係者及び担当職員を含めたすべての職員の意見やアイデアを集約し、具体化した介護計画を作成している。また、モニタリングでの評価を計画の変更や更新に繋げ、より現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の利用者に対する気づきは優れ、それがケアへの実践に繋がっているが、実践の記録にはもう少し記入出来る方が良い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個人のニーズに答えられるように、家族や本人の状態を考えながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの度々の慰問、消防署の防災訓練、地域の幼稚園との交流等を心掛けていますが、地域自治体との協力はあまり得られていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を聞き、適切な医療を受けられる様に、助言し支援している。	かかりつけ医の選定は本人及び家族等の希望によって行っているが、ほぼすべての利用者が事業所の協力医の往診を受けている。併設する訪問看護事業所の看護師は利用者一人ひとりの状況を把握している為緊急時にも正確な情報をかかりつけ医に提供する事ができ、利用者が必要とする医療を受ける事ができる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ施設内に訪問看護部門があり、素早く対応している。一日に2～3回は見回りに来てくれ適切な助言がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病院との連携は密に行い、ケアワーカーとの連携も取れている。入院時には度々御見舞いに行き、情報を貰い。かかりつけ医にも相談を行い早期の退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の事も話し合っている。又、状態が変化した時は、その都度話し合い、家族が納得出来る対応をしている。	事業所は、重度化や終末期の処遇は当然の事ととらえており、契約時に文書化するだけでなく、段階毎に意向の確認をしている。かかりつけ医・看護師等の医療関係者との密な連携及び職員への十分な研修により対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、代表者は看護師であり、職員は個々に訓練されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導の元、防火・消防・避難訓練を行なっている。災害に対する訓練は十分ではない。地域との連携も少なくともっと協力して頂ける関係を作りたい。	年2回の災害時避難訓練を、マニュアルに基づいて実施し、消防の指導も受けているが、利用者と職員が共に参加する訓練には至っておらず、地域の人々の参加はない。水・食料・毛布等は備蓄している。	災害を具体的に想定して、利用者と職員が一緒に避難訓練を行うことを期待したい。また、事業所職員だけの対応には限界がある為、運営推進会議等を有効に活用し地域の人々の訓練への参加を依頼し、協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼で介護理念を頭に入れて仕事を始める。プライバシーは入浴排泄、居室におられる時は特に気を付けている。	利用者の尊厳を守る事は事業所理念そのものでもあり、職員の対応が利用者の誇りやプライバシーを損ねるものになっていないか職員間で常に確認し合っている。又利用者の個人情報についても、目隠しされた場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞きながら、出来るだけ本人の希望に添う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調、機嫌等を見ながらその日の対応を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染めを希望される利用者様に対しては、その都度、職員が対応し、自分で意思表示出来ない方には、定期的に職員がさせて頂いている。衣服については、本人に決めていただいているが、自身で意思表示出来ない方については、ご家族様に尋ねて、対応させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的に、ごく一部の利用者様しか行えない現状であるが、食事作りの手伝いは喜んでしてくれる。又、食べたい物や、好みを尋ね、献立に活かすようにしている。	利用者の好みを活かしての献立で、一緒に買い物に出かける等している。下ごしらえや後片付けに特定の利用者の参加はあるが、重度化により限定されたものである。月毎にお好み焼きづくり等を利用者と職員が一緒に行っており、すべての利用者が心待ちにしている。	介助を要する利用者が多い事もあり、職員が利用者と同じ物を一緒に食べる場面が見られない。出来具合を利用者と共に評価しながら食事を楽しむ等、可能な限り職員も同じテーブルを囲み、同じ物を食べる取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い、少ない時は別の方法を考え、それでも駄目な時は、看護師や医師に相談する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様本人が御自分で出来る場合は除き、口腔ケアは職員が歯ブラシ・口腔用ティッシュ・水等で綺麗にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	様子を観察し排泄パターンを掴むようにしている。	排泄チェック表を参考に、利用者一人ひとりの表情や動きに注意を払いながら、必要時にはさりげなくトイレへの誘導を行っている。パッドやリハビリパンツを用いている利用者についても、必要とする根拠を明確にし、固定化する事なく力の引き出しに努めており、すべての利用者のトイレでの排泄、更には排泄の自立が目標である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気を付け、朝はヨーグルト等を食べてもらい、水分の摂取にも気を配っている。又、排泄表を作り、適切な排便があるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者様の希望に合わせて、その日の気温、利用者様の体調・気分を考慮し、午前又は午後に入ってもらうようにしている。	利用者個々の希望や保清のタイミングに合わせて入浴を実施しており、必要に応じてリフト浴も可能である。ゆず等を用いての季節湯や入浴剤の利用で楽しみを倍加している。入浴を好まない利用者については、無理強いせず、気分の変化をじっくり待つて対応である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて、休息の時間を考え、良いリズムが作れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的・内容・副作用等について理解し、経過の観察を行い、看護師等に報告も出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事、お誕生日会、カラオケ、外食、ドライブ、買い物、慰問等、気晴らしを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調が良く、希望があれば近所のスーパーへの買い物、散歩等支援している。選挙、墓参り等は家族と相談しながら支援している。	利用者からの希望がほとんどない状況に職員は危機感を持っており、漠然とした誘いではなく、理由や目的を持った外出への誘いで実現に繋げている。又普段は行けないような場所へも、行事に組み入れたり、家族の協力を得る等で出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯上の理由により、金銭の授受はお断りしております。買い物の際には、希望があれば利用者様にお金を渡し、レジでの支払い時の支援をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば電話をかけたがり、又、かけてもらったりしています。現時点で手紙を書ける方はおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングで自分の座る場所があり、温度や光に気を付け、居心地の良い様に工夫している。又、季節の花や飾り付けを行い、落ち着いた雰囲気作りをしている。	事業所は高台にあり、空調設備だけに頼らず、共用空間には自然の風が通り心地良い。利用者と職員と一緒に作った貼り絵や職員手づくりの大型日めくり等で、利用者は季節の移ろいや暮らしぶりを実感する事ができる。利用者一人ひとりがソファ等の自ら決めた定位置でゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる居室もあり、皆と過ごせるリビングもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日の写真を飾ったり、季節を感じられるレイアウトを行ったりして、落ち着いた様に工夫している。馴染みの物や自分の物を持ち込まれる方は少ない。	居心地の良さは持ち込まれた物品の多寡で決まるものではないと考え、事業所での誕生会や行事の際の写真やカレンダー等を活用して、本人が落ち着いて過ごせる工夫をしている。希望があれば畳を敷く事も可能である。居室はプライバシーを守る為内側からの施錠もでき、職員は居室の出入りに際して十分な配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には手すりを設置し歩き易い様に工夫している。押車を使用出来る方は利用していただいている。		